篠﨑論文最終頁

## 虎の口に頭を突っ込む(2) 一領海内の潜水艦による諜報―

## はじめに

- 1 グローバル・コモンズにおける情報収集 (以上前号)
- 2 グローバルな潜水艦艦隊(以下本号)
- 3 領海内の潜水艦による情報収集
- 4 無害通航と無害でない通航(以下次号)
- 5 沿岸国による法的な対応と救済措置



ジェームス・クラスカ (米海軍大学校教授)

## 2 グローバルな潜水艦艦隊

全世界で約38カ国が550隻の潜水艦を運用している<sup>82</sup>。原子力潜水艦は、非常に静かで長い持久力を有する(最新の非大気依存推進(AIP)式ディーゼル・エレクトリック潜水艦も同様に静かであるが、持久力に欠ける<sup>83</sup>)。米国は72隻の潜水艦を保有し、このうち58隻が原子力を用いている<sup>84</sup>。ロシアの潜水艦隊(submarin force)は64隻で構成され、うち11隻が原子力を用いている。ロシアは4種類の潜水艦を建造しており、自国の海軍用と

- 82 以下を参照のこと。「全世界の従来型潜水艦 (World-Wide Conventional Submarines), GLOBALSECURITY.ORG, http://www.globalsecurity.org/military/world/ss-intro.htm (last visited Oct. 13, 2015)、Total Submarine Strength by Country, GLOBAL FIREPOWER, http://www.globalfirepower.com/navy-submarines.asp (last updated Apr. 1, 2015).
- 83 国防省事務局「年次議会報告書:中国人民共和国が関与する軍事・安全保障の進展 」(OFFICE OF THE SEC'Y OF DEF., ANNUAL REPORT TO CONGRESS: MILITARY AND SECURITY DEVELOPMENTS INVOLVING THE PEOPLE'S REPUBLIC OF CHINA) 2014, at 8 (2014).
- 84 米国は73隻の潜水艦を運行させている。この中には55隻の原子力潜水艦 (SSN)、4隻の 巡行ミサイル原子力潜水艦 (SSGN)、14隻の弾道ミサイル潜水艦 (SSBN) が含まれている。 以下を参照のこと。スティーブン・サンダース (STEPHEN SAUNDERS) 「米国 (United States)」 in IHS JANE'S FIGHTING SHIPS 2014–2015, at 927, 934–40 (2014).

輸出用のために潜水艦の建造を増やしている 85。英国とフランスはそれぞれ、6隻の高速攻撃潜水艦と4隻の弾道ミサイル潜水艦を運用しており、これらすべてが原子力を用いている。トルコとイスラエルの両国は14隻の潜水艦を有している。イランは31隻の潜水艦を運用している。ブラジル 86 やイスラエル 87 などのさまざまな国々は、最新鋭の潜水艦に多額の投資を行っている。このような規模の海洋戦力を頭に入れると、潜水艦による諜報に関する法が現代的でかつ全世界的な影響を有することについて理解することができる。

## (1) インド太平洋地域における潜水艦の増強

潜水艦による諜報に関する規範の重要性について、インド太平洋地域ほど喫緊となっているところはない。主要大国は、古典的な安全保障のジレンマに苦しんでおり、平和な協力の障害となっている 88。一方で陸軍や空軍を縮小している国があるにもかかわらず、世界における潜水艦市場はブームとなっている 89。潜水艦隊の構成が膨らんでいるのは、アジア太平洋地域である。この地域の国々は、今後 10 年間に新造潜水艦の総数のうちの半分強を調達しようとしている 90。世界の他の地域で軍事費の総額が減少し続けている中で、アジアでは増加している 91。ストッ

- 85 クリストファー・P・カバス (Christopher P. Cavas)「ロシアの潜水艦建造ブームは問題となるか? (Will Russia's Sub-Building Boom Matter?)」 DEF. NEWS (Jan.24, 2015), http://www.defensenews.com/story/defense/naval/submarines/2015/01/24/russia-navy-submarine-shipbuilding-nuclear/22190761/.
- 86 ジャネット・タッピン・コエルホ (Janet Tappin Coelho) ,「ブラジルが潜水艦艦隊の増強を計画 (Brazil Plans to Expand Submarine Fleet)」, IHS JANE'S 360 (Dec. 16, 2014), http://www.janes.com/article/47060/brazil-plans-to-expand-submarine-fleet (ブラジルが、15 隻のディーゼル式潜水艦と、6 隻の原子力潜水艦の建造を意図していると指摘しているもの)
- 87 「イスラエル潜水艦能力 (Israel Submarine Capabilities)」, NUCLEAR THREAT INITIATIVE (July 30, 2013), http://www.nti.org/analysis/articles/israel-submarine-capabilities; このほか、以下を参照のこと:ルイス・レネ・ビールス、レオン・エドニー (Louis René Beres & Leon Edney), 「イスラエルの原子力戦略―潜水艦方式の役割の拡大 (Israel's Nuclear Strategy A Larger Role for Submarine-Basing)」, JERUSALEM POST (Aug. 17, 2014), http://www.jpost.com/Experts/Israels-nuclear-strategy-a-larger-role-for-submarine-basing-371323.
- 88 ジョセフ・S・ナイ (Joseph S. Nye),「中国の再興とアジア太平洋地域の未来 (China's Re-Emergence and the Future of the Asia-Pacific)」, 39 SURVIVAL 65, 74 (1997).
- 89 ダニエル・マイケルズ、クリスティーナ・ザンダー、ロバート・ウォール (Daniel Michaels, Christina Zander & Robert Wall) 「軍事力が世界中で柔軟になる中での潜水艦産業の興隆 (Sub Industry Rises as Militaries Flex Around the Globe)」, WALL ST. J. (May 2, 2015), http://www.wsj.com/articles/SB20752443983005913987204580587501791808426.
- 90 同上。
- 91 ジョン・フェッファー(John Feffer) 「世界では軍事費が削減されているが、アジアでは違

クホルム国際平和研究所は、アジアでの潜水艦艦隊の増加の大半が、中国軍の支出と、それに対する近隣諸国の対応によるものであると報告している<sup>92</sup>。北朝鮮は、この地域の不安定化の最大の原因となったままであるが、中国の顕著な増額は、この地域での戦略的影響として最も大きいものとなっている。中国の軍事力(特に、中国の海軍力)は、アジア太平洋地域における戦略的バランスをひっくり返した<sup>93</sup>。2013年には、軍事費が米国では6.8%減少したのに対し、中国は7.4%増加した<sup>94</sup>。軍の装備経費でアジアが500年ぶりに欧州を上回った<sup>95</sup>。海洋領域に関して、インド洋及び太平洋の海軍艦隊は、このマクロ政治的な移行の恩恵を受けてきた。

潜水艦による諜報が提起する法的問題は、インド洋および太平洋で格別な重要性を有している。なぜなら、沿岸諸国は、島嶼の領有紛争に関して海洋における緊張や歴史的な敵対意識の高まりがあるために、新造艦を調達しているからである。西はインドから東は日本まで広がる長い弧において、アジア諸国は海軍の軍拡競争を行っているが、そのような競争を行っているのは世界でここだけである <sup>96</sup>。中国の東シナ海と南シナ海での海洋に関する未熟な主張 <sup>97</sup> は、過去 15 年間に渡る中国海軍力

- ¬̇ (World Cuts Back Military Spending, But Not Asia) ↓, INTER PRESS SERVICE (Apr. 14, 2014), http://www.ipsnews.net/2014/04/world-cuts-back-military-spending-asia/.
- 92 サム・パルロ・フリースマンとカリーナ・ソルミラノ (SAM PERLO-FREEMAN & CARINA SOLMIRANO), ストックホルム国際平和研究所 (STOCKHOLM INT'L PEACE RESEARCH INST.), SIPRI FACT SHEET: TRENDS IN WORLD MILITARY EXPENDITURE, 2013, at 4–5 (2014), http://books.sipri.org/product info?c product id=476.
- 93 アーロン・フリードバーグ (AARON L. FRIEDBERG) 「覇権争い: 中国、米国そしてアジアでの支配構造 (A CONTEST FOR SUPREMACY: CHINA, AMERICA, AND THE STRUGGLE FOR MASTERY IN ASIA)」 218–19 (2011).
- 94 PERLO-FREEMAN & SOLMIRANO, 前掲註 92, at 1-5.
- 95 2014 年、アジアとオセアニアの軍事費は 4390 億ドルであったが、欧州の軍事費は 3860 億ドルであった。 サム・ペルロ・フリーマン外 (SAM PERLO-FREEMAN ET AL.) 「SIPRI ファクトシート:世界軍事費の傾向 (SIPRI FACT SHEET: TRENDS IN WORLD MILITARY EXPENDITURE)」 2014, at 4–5 (Apr. 2014), http://books. sipri.org/files/FS/SIPRIFS1504.pdf.
- 96 ロディオン・エビンハウセン (Rodion Ebbinghausen) 「アジアにおける新たな軍事レース (*The New Arms Race in Asia*)」 DEUTSCHE WELLE (Mar. 18, 2013), http://www.dw.com/en/the-new-arms-race-in-asia/a-16681158 (「最近の2つの研究で判明したことは、本質的に軍拡競争がアジアで本格化していることであり、この地域における一触即発状態にある衝突の件数を考慮すると重大な懸念材料である。))
- 97 フロリアン・デュピュイとピエール・マリ・デュプイ (Florian Dupuy & Pierre-Marie Dupuy) 「南シナ海における中国の歴史的権利主張についての法的分析 (A Legal Analysis of China's Historic Rights Claim in the South China Sea) 107 Am. J. INT'L L. 124, 141 (中国の歴史的な海洋上の主張が国際法に反していると主張するもの)

の大幅な増強との関連で<sup>98</sup>、この地域を不安定にしている<sup>99</sup>。中国は、海中能力の増強に特に着目している。これには対潜水艦戦の技能の向上と一層進化させた潜水艦隊の開発が含まれ、こうしたステップはロシアからの技術支援を受けて進められている<sup>100</sup>。中国の海軍力の増強とこれに対する近隣諸国の対応は、海軍力への巨額の投資に鑑みると、すでに軍拡のスパイラルのモデルに適合しているように思われる<sup>101</sup>。

この地域の 12 か国は、173 隻の潜水艦を運用している。すなわち、これらの国とは、オーストラリア、中国、インド、インドネシア、日本、北朝鮮、マレーシア、パキスタン、シンガポール、韓国、台湾、ベトナムである  $^{102}$ 。全体では、今後 10 年間に渡るこの地域の潜水艦市場は、540 億ドルと見積もられている  $^{103}$ 。こうした艦隊の最新式で次世代の潜水艦は、拡張されたステルス性の機能を装備しており、このような装備が、諜報、監視、偵察 (ISR) に特に役立ち、これらの潜水艦は、自国の水域をはるかに超えて用いられると予期されている  $^{104}$ 。

- 100 防衛研究所 (日本) (Nat'l Inst. for Def. Stud. Japan) 東南アジア:南シナ海の複雑化 (Southeast Asia: South China Sea Grows More Complicated)」in EAST ASIAN STRATEGIC REVIEW 2014, at 134 (2014), http://www.nids.go.jp/english/publication/east-asian/pdf/2014/east-asian e2014 04.pdf.
- 101 軍備の緊張によるスパイラルからの戦争リスクについては、以下を参照のこと。J・デービット・シンガー (J. David Singer) 「脅威認識と軍備緊張のジレンマ (Threat-Perception and the Armament-Tension Dilemma) | 2 J. CONFLICT RESOL. 90 (1958).
- 102 ケルビン・ワング (Kelvin Wong) 「分析:ディーゼル・エレクトリック方式潜水艦がアジア太平洋水域にて中心になる (Analysis: Diesel-Electric Subs Take Centre Stage in Asia-Pacific Waters)」 48 JANE'S INT'L DEF. REV. 4, 4 (2015).
- 103 同上。
- 104 同上。

中国人民解放軍海軍 (PLAN) は、2020 年までに米国海軍を上回ると思われ、米国艦隊の軍艦と潜水艦が 280 隻足らずであるのに対して、350 隻を擁すると見込まれている 105。米国海軍は世界中で薄く展開しているが、2014 年の 50 隻から増加させて、2020 年までに 67 隻の潜水艦と海上艦を前方へ展開する意図を有している 106。長期的な戦略として東に軸足を移していることから 107、米国は、その軍事力の 60%をアジアに配置することを意図している。すでに米国の海軍の 56%及び海兵隊の60%が太平洋を担当している 108。米国の高速攻撃用原子力潜水艦は、3 隻がグアムに配備されており、4 隻目がこの地域の担当となる可能性がある 109。

地域の諸国は、特に中国の潜水艦プログラムの増強に懸念を抱いている <sup>110</sup>。中国は、5 隻の攻撃用原子力潜水艦、4 隻の弾道ミサイル原子力潜水艦、57 隻の攻撃用ディーゼル潜水艦からなる 66 隻の潜水艦を擁している <sup>111</sup>。また、これらの戦力は、港から離れた場所を偵察している。 2014 年には、中国潜水艦はインド洋の偵察を初めて実施した <sup>112</sup>。 2020 年までには、中国の潜水艦の数が 70 隻を超える予定である <sup>113</sup>。

- 105 デービット・トゥイード (David Tweed)「北朝鮮はアジア最大の安全保障の脅威であると米国海軍大将が述べる (North Korea Is Asia's Biggest Security Threat, U.S. Admiral Says)」 BLOOMBERG (Dec. 3, 2014), http://www.bloomberg.com/news/articles/2014-12-03/north-korea-is-asia-sbiggest-security-threat-u-s-admiral-says 、以下を参照のこと。米国・中国の経済・安全保障検討委員会 (U.S.-CHINA ECON. & SEC. REV. COMM'N,)」 113TH CONG., 2014 ANNUAL REP. TO CONG. 17, 301, 329 (Nov. 2014)、グレッグ・シェリダン(Greg Sheridan)「世界で最強の軍事国家が問題となる理由(Why World's Most Powerful Military Man Matters to You)」 AUSTRALIAN (Oct. 9, 2010), http://www.theaustralian.com.au/news/world/why-worlds-most-powerful-military-manmatters-to-you/story-e6frg6ux-1225936166873.
- 106 2014 ANNUAL REP. TO CONG., 前掲 註 105, at 17, 329.
- 107 エリザベス・バミラー (Elisabeth Bumiller) 「米国の軸足は不安定な同盟国に対応するために東に向いている (U.S. Pivots Eastward to Address Uneasy Allies)」N.Y. TIMES, Oct. 25, 2011, at A4. 108 Tweed. 前掲 註 105.
- 109 「4隻目の潜水艦となるトピカがゲアム配備となる見込み (Topeka Named as 4th Sub to Be Based in Guam)」 NAVY TIMES (Feb. 11, 2014), http://archive.navytimes.com/article/20140211/ NEWS/302110009/Topeka-named-4th-sub-based-Guam.
- 110 以下を参照のこと。 Michaels, Zander & Wall, 前掲 註 89、ローランド・オルーキ (Ronald O'Rourke)「中国海軍の近代化: 米国海軍能力にとっての影響―議会用バックグラウンドと 問題 (Chinese Naval Modernization: Implications for U.S. Navy Capabilities Background and Issues for Congress) | 7 (2014).
- 111 海軍情報部 (OFFICE OF NAVAL INTELLIGENCE)「中国人民海軍: 21 世紀の新たな能力とミッション (THE PLA NAVY: NEW CAPABILITIES AND MISSIONS FOR THE 21ST CENTURY)」15–16 (2015).
- 112 同上 at 4.
- 113 同上 at 15-16.

<sup>98</sup> エドワード・ワング (Edward Wong) 「中国軍は海軍力の増強を求めている (Chinese Military Seeks to Extend Its Naval Power)」 N.Y. TIMES, Apr. 24, 2010, at A1.

<sup>99</sup> 以下を参照のこと。リチャード・ロイド・ペリー (Richard Lloyd Parry),「日本が中国に対抗するために軍事予算を拡大 (Japan Increases Its Military Budget in Challenge to China)」TIMES, Dec. 18, 2013, at 30、マーティン・ファックラー (Martin Fackler)「中国に目を向けて日本が軍を増強 (With Its Eye on China, Japan Builds up Military)」N.Y. TIMES, Mar. 1, 2011, at A4、アン・スコット・タイソン (Ann Scott Tyson)「中国の増強がこの地域の脅威として見られる (Chinese Buildup Seen as Threat to Region)」WASH. POST, July 20, 2005, at A16、エドワード・ワン (Edward Wong)「中国海軍が拡大、この地域を不安定に (China Navy Reaches Far, Unsettling the Region)」N.Y. TIMES, June 15, 2011, at A11、デービット・トゥイード (David Tweed)「モディ首相が中国の潜水艦を寄せ付けないようにするために、インド洋を周遊 (Modi Touring Indian Ocean to Keep China's Submarines at Bay)」BLOOMBERG (Mar. 9, 2015), http://www.bloomberg.com/news/articles/2015-03-09/modi-tours-indian-ocean-to-keep-china-and-its-submarines-at-bay、サンジェフ・ミグラニとトミー・ウァイクス (Sanjeev Miglani & Tommy Wilkes)「中国潜水艦に悩まされインドが他の国々に追随して艦隊を再建 (Rattled by Chinese Submarines, India Joins Other Nations in Rebuilding Fleet)」REUTERS (Dec. 2, 2014), http://www.reuters.com/article/2014/12/03/us-india-china-navy-idUSKCN0JG2GM20141203.